



ゆめ*よみ

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課
社会教育・読書推進グループ
TEL: 011-204-5994
FAX: 011-232-2236

「チーム読書」による読書活動の推進

学習指導要領の改定により、学校図書館において児童生徒が言語活動や探究活動などの学習活動を行う機会がますます多くなり、今後、学校図書館の環境整備の充実はもとより、効果的な利活用の促進を図っていくことが一層求められます。

このような状況で、学級担任や教科担任が子どもの読書活動の推進を単独で進めていくことは、大きな負担となります。効果的な取組を実現するためにも、各種計画に基づき、学校の教職員がチームとなり、また、地域の様々な人材の協力を得ることが大切です。

チーム読書

- ・教職員が、それぞれの専門性や得意分野などを生かし、組織として子どもの読書活動の推進を図るための指導体制を充実
- ・地域の様々な人材との連携を図った子どもの読書活動の推進・充実
- ・校長のリーダーシップの下、学校図書館の全体計画等にある取組内容について、各種データや調査結果に基づき、定期的な点検・評価・改善

各地の子ども読書応援団の取組紹介

「本をとおして親子のふれあいを」 風の子文庫（江別市）

「風の子文庫」は、今から約40年前、子どもの遊び場や居場所が少なかった江別市大麻地区に、代表の眞島さんがご自宅で子どもたちに文庫の貸し出しを始めたことがきっかけでスタートしました。昭和51年2月の発足当時は3名だったメンバーも、現在は12名が運営に携わっています。

毎週金曜日の午後2時から5時まで、誰でも本を借りたり、その場で読書を楽しんだりできるよう2000冊以上の本を用意しています。

また、児童館や図書館において、ブックスタートでの読み聞かせや子育ての相談活動も行っています。

さらに、市内のサークルが集まり「紙芝居」、「語り」、「読み聞かせ」などを行う「おはなしいっぱい」というイベントを市立図書館と連携して毎年開催しています。

代表の眞島さんは、「紙の本は、親子のふれあいや、関係づくりのきっかけになる。これからも、様々な読書活動をとおして人の輪を広げていきたい。」と話していました。



【「風の子文庫」の様子】



【イベントでの読み聞かせの様子】

「子どもたちの読書活動の充実に向けて」 おはなしはらっぱ（弟子屈町）

弟子屈町内の絵本読み聞かせサークル「おはなしはらっぱ」は、平成3年に設立され、現在は10名の会員で、町図書館や町内小学校における読み聞かせや乳児向けに本をプレゼントするブックスタート事業に関わっています。設立当初から毎週土曜日に実施している読み聞かせ会は、平成30年8月末現在、1234回を数えました。

本サークルが開催した古本市の益金を活用し、本年5月に町図書館に幼児向け絵本を寄贈するとともに、初めて本に触れる子どもたちには、お薦めの絵本を3冊入れた会員手作りの布製バックを贈るなど、町内の子どもたちの読書活動の充実に向けて貢献しています。

また、昨年度は設立25周年の節目を迎え、町公民館を会場に記念企画「はらっぱまつり」を開催しました。会場には「絵本スタンプラリー」と題し、定番の絵本や紙芝居、しかけ絵本、布絵本の読み聞かせコーナーを設置し、子どもたちに楽しく読書活動に触れる機会を提供しました。笹島会長は「25年はあっという間でした。当時の子どもたちが読み手になったり、親子2代で通ってくれたりする人もいます。」とこれまでの活動を振り返りました。



【読み聞かせの様子】



【紙芝居の様子】

「子ども達の成長を感じられる読み聞かせの力」

読み聞かせボランティアひなたBOOK^{ぼっこ}*（夕張市）

平成19年、財政破綻により夕張市図書館が廃止となりました。「図書館は廃止するけど、なんとか図書館機能だけは残したい」という市の思いから「夕張市図書コーナー」が誕生しました。読み聞かせボランティア「ひなたBOOK^{ぼっこ}*」は、同年、「夕張市図書コーナー」を応援し、夕張市のすべての子ども達の読書活動を支えることを目的に「子どもたちに本を通して夢と希望を伝えたい」という市民有志が集まり発足しました。

「ひなたBOOK^{ぼっこ}*」は、図書コーナーを応援するだけではなく市の育児教室や乳児健診、市内小学校での読み聞かせなど、夕張の子ども達が本に触れる機会を提供しています。育児教室では絵本の読み聞かせの他に赤ちゃんやお母さん達と一緒に童謡を歌ったり、手遊びをしたりして親子やお母さん同士の交流を深めています。ゆうばり小学校では「朝の読み聞かせ」に取り組んでいます。先生方からは「子どもたちが落ち着いて授業に入っている」という声が寄せられています。絵本を読み始めると、ざわざわしていた子ども達が集中して静かになる瞬間や笑ったり驚いたりする反応を見せてくれる瞬間があり、読んでいる方も楽しくなります。小学校で読み聞かせを続けていると、クラスの変化がよくわかる時があって、とても感動します。また、毎年9月に開催される「ゆうばり図書まつり」には企画段階から携わり、夕張の子ども達が楽しんでくれる内容を考えています。当日は、おはなし会を担当し、パネルシアターなどで子ども達にお話しの楽しさを伝えています。

11年間の活動の中で読み聞かせにより子ども達の成長を感じられる機会が増えてきました。子ども達が生涯に渡って本に親しんでくれることを願って、これからも活動を続けていきたいと思えます。



【教室での読み聞かせ】



【ゆうばり図書まつりでのパネルシアター】

「絵本の楽しさを伝えるための新たなチャレンジ」 絵本読み聞かせ・しべつ鳩の会（土別市）

子どもたちが本との出会いによって読書の楽しさを知り、豊かな心に育ってくれることを願う「絵本読み聞かせ・しべつ鳩の会」。昭和52年の発足以来、市立図書館と連携しながら、絵本読み聞かせを中心に地道な活動を続けています。

8名の会員は、月2回、図書館において読み聞かせを行っているほか、夏には「こわいお話会」「平和を願うおはなし会」、冬には「クリスマス会」など、多くの絵本に親しむ機会を提供しており、土別の子どもたちや保護者にとって欠かせない存在です。

41周年を迎える「鳩の会」は、今年7月、新たなチャレンジとして、絵本を置いた商店や施設（絵本ステーション）等を親子がスタンプラリー形式で巡る「体験の風・しべつ絵本ツアー」にスタッフとして参加しました。絵本ステーションの一つである西教寺では、『もったいないばあさんのてんごく とじごくのはなし』や『だいぶつさまのうんどうかい』の読み聞かせを行い、本堂の静かな雰囲気の中で、子どもたちは息を飲みながら真剣な表情で絵本の世界に浸っていました。

高瀬代表は「お寺の本堂で読み聞かせをするなんて、子ども以上に私がワクワクしました。会員の減少という課題はありますが、できる限り、土別の子どもたちが絵本の楽しさを味わう機会をつくっていきたいです。」と、意欲をのぞかせています。



【西教寺本堂での読み聞かせ】

「親子で本にふれあうきっかけに」 平取小学校図書ボランティア「たまたばこ」（平取町）

平成13年から、平取小学校を中心に町内の小学校において、月1回の読み聞かせを通して、子どもたちに豊かな心を育てています。

当初は、メンバーのほとんどが保護者で、子どもたちの学校生活を見るのも楽しみながら活動していました。人数も多かったので、図書室の本の整理や飾り付け、町立図書館からの団体貸し出しの選書も手がけていました。転勤の事情によりメンバーの入れ替わりもありましたが、多くの方々に支えられて現在に至っています。平成29年度には、「日高管内教育実践表彰」「平取町善行表彰奨励賞」を受賞することができました。

絵本をツールとして「親子で会話をしてほしい」「親子がふれあうきっかけになってほしい」という思いから、読み聞かせに使用した本を事後に通信により紹介しています。通信を読んだお母さんから「通信見たよ。子どもが〇〇の絵本おもしろかったって言ってたよ。」などと、言ってもらえることがうれしいです。

「たまたばこ」の活動を通して、平取のたくさんの子どもたちやすてきな本に出会えたことが宝物になっています。



【教室での読み聞かせ】

「親子が言葉と心を通わせる、絵本の読み聞かせ」 「ベビーサンタの会」(広尾町)

「ベビーサンタの会」は、絵本の良さを広め、親子の絆を深めることを目的に平成14年に広尾町のブックスタート事業に協力する「ブックスタートボランティア」として発足しました。平成29年度からは、名称を「ベビーサンタの会」と変更しています。

主な活動は、町健康管理センターで実施される乳幼児健診を終えた親子(対象:6・7か月児)への絵本の読み聞かせを通して、赤ちゃんとのスキンシップやコミュニケーションを図る方法があることを伝えるとともに、家庭で読み聞かせを行うコツなどのアドバイスを行っています。

また、保健師や図書館職員と連携を図りながら、ブックスタート事業についての年間活動計画を作成するとともに、対象児へのプレゼント絵本の選定や乳幼児向けの絵本貸出用パックの検討、図書館まつり等のイベントへの協力を行っています。

今後もより多くの親子を対象に、読み聞かせの大切さを伝えたり、絵本を通して言葉と心を通わす、かけがえのないひと時を体験していただけるよう活動を続けていきたいと考えています。



【ブックスタートの様子】

「子供たちに読書の楽しさを育む」 「このゆびとーまれ♪」(中頓別町)

中頓別町の読み聞かせボランティアサークル「このゆびとーまれ♪」は、「子どもたちに読書の楽しさを知ってもらいたい」という願いをもった町内有志が集まった団体です。

本サークルは、平成14年から町教委が主催して実施している「読み聞かせ・ブックスタート事業」の運営にボランティアとして携わったメンバーを母体として、平成22年5月から正式にボランティアサークルとして発足しました。

主な取組として、年4回の乳幼児健診で、絵本をきっかけに親子で楽しい時間を過ごしてもらおうことをねらいとした、読み聞かせを行っています。また、町内の小学校への読み聞かせや学校図書の本棚の整頓を行い、子どもたちが読書に親しむ環境を整えています。

サークルの皆さんは、子どもたちが読書への楽しさを実感できるよう、今後も思いを一つにして読み聞かせを行っていききたいと語っていました。



【乳幼児健診での様子】



【小学校での読み聞かせの様子】

